

色一番E 安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
会社名

担当部署
住所
電話番号
Fax番号
電子メールアドレス
緊急連絡電話番号

色一番E
全国農業協同組合連合会
耕種資材部
〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル33F
03-6271-8285
03-5218-2536
zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限

肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日: 2020年2月27日

健康に対する有害性

生殖細胞変異原性 区分2
標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(呼吸器)
標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(呼吸器、神経系)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分2
水生環境有害性(長期間) 区分2

上記で区分の記載がない危険有害性はガイダンス文書で規定された[分類対象外]または[分類できない]に該当する。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

遺伝性疾患のおそれの疑
呼吸器の障害のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱後は手などをよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
【応急措置】
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。
ばく露したとき、又は気分が悪いとき: 医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
漏出物を回収すること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分

混合物

化学名又は一般名	硫酸マンガン	ほう酸	モリブデン酸アンモニウム	その他肥料原料
濃度(重量%)又は濃度範囲	1.0~2.0	1.0~2.0	0.1~0.5	95~98
分子量	150.994	61.831	1163.89	データなし
示性式又は構造式	MnSO4	BH3O3	H24Mo7N6O24	データなし
CAS番号	7785-87-7	10043-35-3	12027-67-7	—
官報公示整理番号(化審法)	(1)-477	(1)-63	データなし	—
官報公示整理番号(安衛法)	(1)-477	既存	データなし	—

分類に寄与する不純物及び安定化添加物(濃度又は濃度範囲)

添加物: なし
不純物: 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

口腔内、鼻腔内を水で洗浄する。
気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水で丁寧に洗浄する。
必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

多量の清水で15分間眼を洗浄した後、医師の処置を受ける。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

直ちに水を飲んで薄め吐き出させるとともに、医師の診断、手当てを受けること。

急性及び遅発性の最も重要な兆候及び症状
応急措置をする者の保護

データなし
「8 ばく露防止及び保護措置」の項に記載の適切な保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項 情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤 不燃性であるので、消火剤は周辺火災に適合したものを使用する。
 使ってはならない消火剤 該当なし
 特有の危険有害性 データなし
 特有の消火方法 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
 消火を行う者の保護 「8 ばく露防止及び保護措置」の項に記載の適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具、局所排気、全体換気を行い、当該物質の接触、吸入を避け漏出物を回収すること。
 環境に対する注意事項 洗浄液は窒素やリン酸分等を含んでいるので下水、河川に直接流さず廃棄上の注意事項を守ること。
 封じ込め及び浄化方法・機材 飛散物は箒などで掃き集め容器またはポリ袋に回収する。回収終了後、水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策 吸入を避けるため適切な保護具を着用する。
 局所排気・全体換気 取り扱いは、換気の良い場所で行う。
 安全取扱い注意事項 必要な保護具を着用し、かつ作業場付近に十分な水を用意する。
 飛散した粉じんを吸い込まないようにする。
 接触回避 アルカリ(石灰硫黄合剤等)と接触させないこと。
 適切な衛生対策 取り扱い後は、手、顔等をよく洗う。
 休息場所には、手袋等の汚染された保護具を持ち込んではいけません。
 保管 安全な保管条件 吸湿性が大いなので、高温多湿を避け地面に直接置かない。
 技術的対策 施錠して保管する。
 冷暗所に保管する。
 直接日光が当たらないように保管する。
 混触危険物 開封後は密封して保管する。
 強酸、強塩基と近接した保管は避ける。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度(職業ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

化学名又は一般名	硫酸マンガ	ほう酸	モリブデン酸アンモニウム	その他肥料原料
管理濃度	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	日本産業衛生学会(2015年版)	設定なし	(吸入粉じん) 2mg/m ³ 、(総粉じん) 8mg/m ³	設定なし
	ACGIH(2013年版)	設定なし	TLV-TWA 2mg/m ³ (インハラブル粒子)、TLV-STEL 6mg/m ³ (インハラブル粒子)	設定なし

設備対策 作業場に手洗い場を設ける。
 保護具 呼吸器の保護具 防塵マスク
 手の保護具 ゴム手袋
 眼の保護具 安全眼鏡
 皮膚及び身体の保護具 粉が浸透しない素材のものを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

当該化学品および成分の物理化学的性質

化学名又は一般名	当該化学品	硫酸マンガ	ほう酸	モリブデン酸アンモニウム
含有率(重量%)又は範囲		1.0~2.0	1.0~2.0	0.1~0.5
物理的状態	物理的状態*1	固体	固体	固体
	形状*1	粉体	粉体	粉体
	色*1	白色	データなし	無色あるいは白色
臭い	無臭	データなし	無臭	データなし
においのしきい(閾)値	データなし	データなし	データなし	データなし
pH	5.5~6.5	データなし	5.1(0.1M) HSDB(2013)	5.0~5.5(5%溶液) HSDB(2015)
融点・凝固点	データなし	700°C NITE(Access on Oct.2008)	170.9°C HSDB(2013)	90°C(分解) NITE総合検索(2015)
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし	850°C NITE(Access on Oct.2008)	データなし	190°C(分解) HSDB(2015)
引火点	データなし	データなし	データなし	不燃性 GESTIS(2015)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし	データなし	データなし	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし	データなし	不燃性 ICSC(1994)	データなし
爆発範囲(上限、下限)	データなし	データなし	不燃性 ICSC(1994)	データなし
蒸気圧	データなし	データなし	1.6X10 ⁻⁶ mmHg HSCB(2013)	データなし
蒸気密度(空気=1)	データなし	データなし	データなし	データなし
比重(密度)	データなし	3.25 NITE(Access on Oct.2008)	1.5g/cu cm HSDB(2013)	データなし
溶解度(水)	データなし	520g NITE(Access on Oct.2008)	5.6g/100mL ICSC(1994)	43g/100ml HSDB(2015)
n-オクタノール・水分係数	データなし	データなし	log Kow=0.175 HSDB(2013)	データなし

自然発火温度	データなし	データなし	データなし	不燃性 GESTIS(2015)
分解温度	データなし	データなし	171℃ ICSC(1994)	190℃ HSDB(2015)
粘度(粘性率)	データなし	データなし	データなし	データなし

付加情報(混合物としての物理化学的情報)

爆発物	爆発性に関する原子団を含んでいない。GHS分類は「分類対象外」である。
可燃性又は引火性ガス	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
可燃性又は引火性エアゾール	エアゾール製品でない。GHS分類は「分類対象外」である。
支燃性又は酸化性ガス類	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
高圧ガス	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
引火性液体	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
可燃性固体	含有される成分は全て不燃性である。GHS分類は「区分外」とした。
自己反応性物質および混合物	データがない。GHS分類は「分類できない」である。
自然発火性液体	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
自然発火性固体	含有される成分は全て不燃性である。GHS分類は「区分外」とした。
自己発熱性物質および混合物	含有される成分は全て不燃性である。GHS分類は「区分外」とした。
水反応可燃性化学品	データがない。GHS分類は「分類できない」である。
酸化性液体	GHSの定義における固体である。GHS分類は「分類対象外」である。
酸化性固体	データがない。GHS分類は「分類できない」である。
有機過酸化物	無機化合物である。GHS分類は「分類対象外」である。
金属腐食性物質	個体状の物質に適した試験方法が確立していない。GHS分類は「分類できない」である。

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

危険有害反応可能性

通常の保管・取り扱いにおいて安定である。

該当なし。

「石灰硫黄合剤」と混合すると、有害ガスが発生する恐れがある。

11. 有害性情報

混合物としての有害性情報(混合物としての有害性試験情報はない)

急性毒性	経口	混合物の含有成分から算出し、ATEmix=4205mg/kgとなったため、区分外とした。
	経皮	混合物の含有成分から算出し、ATEmix=4555mg/kgとなったため、区分外とした。ただし、14.6%の毒性不明成分を含有する。
	吸入(蒸気)	データがないため分類できない。
	吸入(ミスト)	データがないため分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		データがないため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		データがないため分類できない。
感作性	呼吸器感作性	データがないため分類できない。
	皮膚感作性	データがないため分類できない。
生殖細胞変異原性		混合物は硫酸マンガンを1.0%含有することから区分2とした。
発がん性		データがないため分類できない。
生殖毒性		データがないため分類できない。ただし、区分2の硫酸マンガンを1.0%含有する。有害性情報は「生殖能または胎児への悪影響の恐れ」である。
標的臓器毒性(単回ばく露)		混合物は硫酸マンガンを1.0%含有することから区分2(呼吸器)とした。
標的臓器毒性(反復ばく露)		混合物は硫酸マンガンを1.0%含有することから区分2(呼吸器、神経系)とした。
吸引性呼吸器有害性		データがないため分類できない。

その他の情報(GHS分類に該当しないもの)

付加情報(各成分の有害性情報)

硫酸マンガン	急性毒性(経口)	ラットを用いた経口投与試験のLD50値=782mg/kg(ATSDR(2000))であるとの報告に基づき、区分4とした。
	急性毒性(経皮)	データがないため分類できない。
	急性毒性(吸入:蒸気)	GHSの定義による個体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。
	急性毒性(吸入:ミスト)	データがないため分類できない。
	皮膚刺激性及び皮膚腐蝕性	IUCLD(2000)のヒト疫学事例に、「中等度の刺激を示した」とあるが、詳細が不明のため分類できない
	眼刺激性又は腐蝕性	IUCLD(2000)のヒト疫学事例に「刺激性を示した」とあるが、詳細不明であるため、分類できないとし
	呼吸器感作性	データがないため分類できない。
	皮膚感作性	データがないため分類できない。
	生殖細胞変異原性	DFGOT vol.12(1999)、CICAD12(1999)の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo変異原性試験(小核試験、染色体異常試験)で陽性、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なし、であることから、区分2とした。
	発がん性	毒性情報はあるが、既存分類がないため、専門家の判断に従い、分類できないとした。
	生殖毒性	CICAD12(1999)の記述から、親動物の一般毒性についての記述はないが、精子の奇形が見られていることによる。
標的臓器毒性(単回暴露)	「マンガン粉塵(特にMnO ₂ とMn ₃ O ₄)の急激な暴露は、肺の炎症反応を生じさせ、時間の経過とともに肺機能障害を誘導する。肺への毒性は気管支炎等の感染性を上昇させ、結果としてマンガン肺炎を発症させる」(CICAD12(1999)との記載があることから、標的臓器は呼吸器と考えられる。以上より、分類は区分1(呼吸器)とした。	
標的臓器毒性(反復暴露)	「最も一般的な含マンガン無機物は二酸化マンガン、炭酸マンガン、珪酸マンガン、三酸化マンガンである。通常、過剰のマンガン化合物の14日間もしくはそれ以下(短期間)または1年間にわたる(中期間)暴露は、呼吸器および神経系に影響を及ぼし、他の臓器には影響を及ぼさないとされている」(CICAD63(2004)、CICAD12(1999))との記載があることから、標的臓器は呼吸器、神経系と考えられる。以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)とした。	
吸引性呼吸器有害性	データがないため分類できない。	

ほう酸	急性毒性(経口)	ラットのLD50値として、2,660-5,140 mg/kg(NITE初期リスク評価書(2008))、> 4,000 mg/kg(NTP TR324(1987)、(ATSDR(2007))), 3,765 mg/kg(EU-RAR(2007))、2,660 mg/kg(水溶液)、5,140 mg/kg(20%水懸濁液)、3,160 mg/kg(50%水懸濁液)、3,450 mg/kg(50%水懸濁液)、4,080 mg/kg(50%水懸濁液)、5,000 mg/kg(水懸濁液)(以上6件 DFGOT vol.5(1993))の報告に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。なお、今回の調査で入手したNITE初期リスク評価書(2008)、NTP TR-324(1987)、EU-RAR(2007)のデータを追加し、JIS分類基準に従い、区分5から区分外に変更した。
-----	----------	---

急性毒性(経皮)	ラットのLD50値> 2,000 mg/kg(EU-RAR(2007))及びウサギのLD50値> 2,000 mg/kg(EPA Pesticides "Reregistration Eligibility Decision" TRED(2006))に基づき、区分外とした。なお、本調査で入手したEU-RAR(2007)及びEPA Pesticides "Reregistration Eligibility Decision" TRED(2006)のデータに基づき、分類した。
急性毒性(吸入:蒸気)	GHSの定義による個体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。
急性毒性(吸入:ミスト)	データ不足のため分類できない。なお、ラットに本物質の2.12 mg/Lを4時間吸入ばく露して死亡が発生しなかった(EU-RAR(2007))、ラットのLCLo 28 mg/m ³ /4h(0.028 mg/L/4h)(DFGOT vol.5(1993))との報告がある。当該物質の20°Cにおける飽和蒸気圧は無視することが可能である(HSDB(Access on September 2013))との記載から粉じんによる試験とみなした。
皮膚刺激性及び皮膚腐蝕性	4時間適用試験かは不明であるが、モルモット及びウサギを用いた、本物質の10%水溶液を5 mL適用した皮膚刺激性試験において、「24、72時間後に判定した試験で、モルモット及びウサギのいずれにも刺激性がみられた」(NITE 初期リスク評価書(2008))、「軽度から中等度の皮膚刺激性がみられた」(PATTY(4th, 2000)、PATTY(6th, 2012))との記載から、区分2とした。
眼刺激性又は腐蝕性	ウサギ6匹を用いた眼刺激性/腐食性試験では、本物質100 mgを24時間適用後、洗眼した結果、結膜に水疱がみられたが、7日以内に回復した(IUCLID(2000))。また、ATSDR(2007)、ACGIH(7th, 2005)のヒトへの健康影響の記述において、その程度、回復期間については不明だが、刺激性があるとの報告が得られていることから、区分2とした。本事業において新しく得られた情報を分類根拠に用い、見直し
呼吸器感受性	データがないため分類できない。
皮膚感受性	データがないため分類できない。
生殖細胞変異原性	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウス骨髄細胞を用いる小核試験で陰性である(NITE初期リスク評価書(2008)、EU-RAR(2007)、IUCLID(2000)、ACGIH(7th, 2005)、EPA Pesticide(1994)、ECETOC-TR 63(1995))。in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験(NITE初期リスク評価書(2008)、EU-RAR(2007)、IUCLID(2000)、ACGIH(7th, 2005)、EPA Pesticide(1994)、NTP DB(Access on June 2013))、哺乳類培養細胞を用いる遺伝子突然変異試験(NITE初期リスク評価書(2008)、EHC 204(1998)、IUCLID(2000)、ACGIH(7th, 2005)、NTP DB(Access on June 2013)、EPA Pesticide(1994))及び染色体異常試験(NITE初期リスク評価書(2008)、EHC 204(1998)、EU-RAR(2007)、NTP DB(Access on June 2013))のいずれ
発がん性	ACGIH(2005)でA4(無機ほう酸化合物として)に、また、IRIS(2004)でグループEに分類されている。そのうち、IRISの分類基準は1999年のものであり、その後基準改訂がされておりこれは古い区分である。そのため、新しい情報であるACGIHを採用し、「分類できない」とした。分類ガイダンスの改訂により、区分を変更した。
生殖毒性	マウスを用いた連続交配試験では雄の生殖能に対する影響がみられ、精(胎)能力低下、不妊、出生児数減少、出生児体重減少がみられている。ラットを用いた3世代生殖毒性試験では精巣萎縮、排卵数減少、雌の生殖能に対する影響によると考えられる不妊がみられている(NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH(7th, 2005)、EHC(1998)、DFGOT vol. 5(1993))。発生毒性については、ラットを用いた催奇形性試験において母動物に影響がみられない用量で胎児体重減少、第13肋骨短縮及び波状肋骨の増加がみられている(NITE初期リスク評価書(2008)、EHC 204(1998)、ACGIH(7th, 2005)、DFGOT vol. 5(1993)、NTP DB(Access on Aug. 2013))。また、母動物毒性のみみられる用量でラットでは胎児死亡率増加、胎児体重減少、頭蓋顔面の奇形(主として無眼球、小眼球)、中枢神経系の奇形増加(主として脳室拡張、水頭症)(NTP DB(Access on Aug. 2013))、ウサギでは胎児死亡率増加、心血管系の奇形増加(主としてVSD)(NITE初期リスク評価書(2008)、ACGIH(7th, 2005)、EHC(1998)、NTP DB(Access on Aug. 2013))がみられている。したがって、区分1Bとした。なお、旧分類
標的臓器毒性(単回暴露)	ヒトについて、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、中枢神経系の抑制、痙攣、呼吸器刺激の記述(ACGIH(7th, 2005)、DFGOT vol.5(1993))があり、また、実験動物については、わずかな気道刺激性がみられた(ECETOC TR 63(1995))。以上より、分類は区分1(中枢神経系、消化管)、区分3(気道刺激性)とし
標的臓器毒性(反復暴露)	ヒトでの反復ばく露影響に関する報告はない。実験動物ではマウス及びラットに13週間又は2年間混餌投与した試験において、区分2のガイダンス値範囲を上回る用量(150 mg/kg/day 相当以上)で、精巣(萎縮、精細管萎縮)、脾臓(髄外造血亢進)、血液系(ヘモグロビン、ヘマトクリットの減少)への影響が見られた(NITE初期リスク評価書(2008))との記述より、経口経路では区分外相当であるが、他の経路による毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。なお、旧分類ではList 3の情報源からのヒト症例データに基づき、区分1(腎臓)に分類されているが、今回調査したList 1及び2の情報源からは「腎臓」を標的臓器とする根拠データは得られず、「腎臓」は標的臓器から削除した。
吸引性呼吸器有害性	データがないため分類できない。

モリブデン酸アンモニウム	急性毒性(経口)	ラットのLD50値として、680 mg/kgとの報告(環境省リスク評価第10巻(2012))に基づき、区分4とした。
	急性毒性(経皮)	データがないため分類できない。
	急性毒性(吸入:蒸気)	GHSの定義による個体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。
	急性毒性(吸入:ミスト)	GHSの定義による個体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。
	皮膚刺激性及び皮膚腐蝕性	データがないため分類できない。
	眼刺激性又は腐蝕性	本物質は動物の眼に対して刺激性を示すとの記載があることから区分2(HSDB(Access on September 2015))とした。
	呼吸器感受性	データがないため分類できない。
	皮膚感受性	データ不足のため分類できない。なお、ヒト787人に対する調査において、本物質1%溶液に対して皮膚反応が3例報告されている(DFGOT vol. 18(2002))。
	生殖細胞変異原性	In vivoでは、マウスの優性致死試験で陽性、マウス骨髄細胞の小核試験で陽性(環境省リスク評価第10巻(2012)、ACGIH(7th, 2003))との知見がある。In vitroでは、ヒトリンパ球の小核試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陽性である(環境省リスク評価第10巻(2012)、ACGIH(7th, 2003))。上記のin vivo試験の原著を確認した結果、モリブデン酸のアンモニウム塩についてはin vivo試験が行われていない(Titenko-Holland et al., 1998)ことから、これらのin vivo試験の知見は使用できず、ガイダンスに従い分類できないとした。
	発がん性	本物質自体の発がん性に関する情報はない。ただし、モリブデン酸ナトリウム(CAS番号: 7631-95-0)の本項に記述したように、三酸化モリブデンを用いた発がん性試験結果等に基づき、ACGIHは可溶性モリブデン化合物に対する発がん性評価として、A3に分類した(ACGIH(7th, 2003))。本物質も可溶性モリブデン化合物に該当し(ACGIH(7th, 2003))、ACGIHの発がん性分類結果が適用可能と考えられる。よって、本項は区分2とした。
	生殖毒性	本物質の生殖影響に関する情報はヒト、実験動物ともない。しかしながら、本物質は可溶性モリブデン化合物に属し、モリブデン酸ナトリウム(CAS番号: 7631-95-0)の毒性情報に基づく分類が可能で、その分類結果を適用することが妥当と考えた。よって、本項は区分2とした。
標的臓器毒性(単回暴露)	本物質は気道刺激性がある(DFGOT vol. 18(2002)、ACGIH(7th, 2003))ことから、区分3(気道刺激性)とした。	

標的臓器毒性(反復暴露)	ヒトに関するデータはない。実験動物では、ラットを用いた8週間強制経口投与毒性試験において、区分2の範囲である80 mg/kg/day (90日間換算値: 約50 mg/kg/day) で体重増加抑制、腎臓の絶対重量減少、腎臓の相対重量増加、尿量増加、尿中のクレアチニン量増加、クレアチンクリアランスの低下、遠位尿細管からの尿中逸脱酵素(カリクレイン) 排泄の増加がみられている(環境省リスク評価第10巻(2012))。本物質については腎臓の器質的変化がみられないが機能に影響がみられること、また、類縁物質であるモリブデン酸ナトリウム塩では器質的変化がみられていることから、区分2(腎臓)とし
吸引性呼吸器有害性	データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

混合物としての環境影響情報(混合物としてのデータはない)

水生環境有害性(急性)	混合物の含有成分から算出し、L(E)c50m=3.86mg/Lとなったため、区分2とした。ただし、12.1%の水生環境有害性が不明の成分を含む。
水生環境有害性(慢性)	混合物の含有成分から算出し、慢性2とした。ただし、96.3%の水生環境有害性が不明の成分を含む。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動度	データなし。
オゾン層への有害性	モントリオール議定書にリストアップされていない成分よりなるが、データがなく分類できない。

付加情報(各成分の環境有害性情報)

硫酸マンガ ン	水生環境有害性(急性)	甲殻類(オオミジンコ)の48時間 EC50=8.3mg/L (CICAD63(2004)) (硫酸マンガ(II)濃度換算値: 22.8mg/L)から、区分3とした。
	水生環境有害性(長期間)	急性毒性が区分3、金属化合物であり水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分3とし
	オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため分類できない。

ほう酸	水生環境有害性(急性)	藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)72時間ErC50 = 290 mg/L(環境省生態影響試験, 2008)、甲殻類(オオミジンコ)48時間LC50 = 133 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008; 環境省リスク評価第6巻, 2008)、魚類(ギンザケ)96時間LC50 = 447 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008)であることから、区
	水生環境有害性(長期間)	本物質は無機化合物であり水中での挙動が不明であるが、魚類(ニジマス)の87日間NOEC=2.1 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008; 環境省リスク評価第6巻, 2008)であることから、区分外とした。
	オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため分類できない。

モリブデン 酸アンモニ ウム	水生環境有害性(急性)	データが不足しているため分類できない。
	水生環境有害性(長期間)	データが不足しているため分類できない。
	オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

肥料として農作物に適量撒くか、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の関係法令を遵守し、適切な処理業者に委託する。

汚染容器及び包装

汚染容器・包装は製品をよくはらい落とししたあと、一般の法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規則

国連分類	該当なし
国連番号	該当なし
品名(国連輸送名)	該当なし
容器等級	該当なし
海洋汚染物質(当該/非当該)	該当なし
MARPOL 73/78 付属書II及びIBC コードによるばら積み輸送される 液体物質	該当なし

国内規制

海上規制情報	該当なし
航空規制情報	該当なし
陸上規制情報	該当なし
特別安全対策	水濡れに注意すること。
緊急時応急措置指針番号	該当なし

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物(第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
表示物質 硫酸マンガ(≥1%)、ほう酸(≥1%)、モリブデン酸アンモニウム(≥1%)
通知物質 硫酸マンガ(≥1%)、ほう酸(≥1%)、モリブデン酸アンモニウム(≥1%)

化学物質管理促進法

第一種指定化学物質 硫酸マンガ(≥1%)

水質汚濁防止法

生活環境項目(水質汚濁防止法第2条第2項第2号)

16. その他の情報

参考文献、URL

日本産業衛生学会 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS分類結果データベース
厚生労働省 職場のあんぜんサイト GHSモデルラベル・SDS情報
化学物質総合情報システム(CHRIP) GHS分類結果
改訂履歴 2020年2月27日作成

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときには、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。

本SDSは、下記ロイヤルインダストリーズ株式会社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名	ロイヤルインダストリーズ株式会社
住所	〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19
電話番号	03-3489-1408
FAX番号	03-3489-9308
電子メールアドレス	ric@roval-ind.com
緊急時連絡電話番号	03-3489-1408

